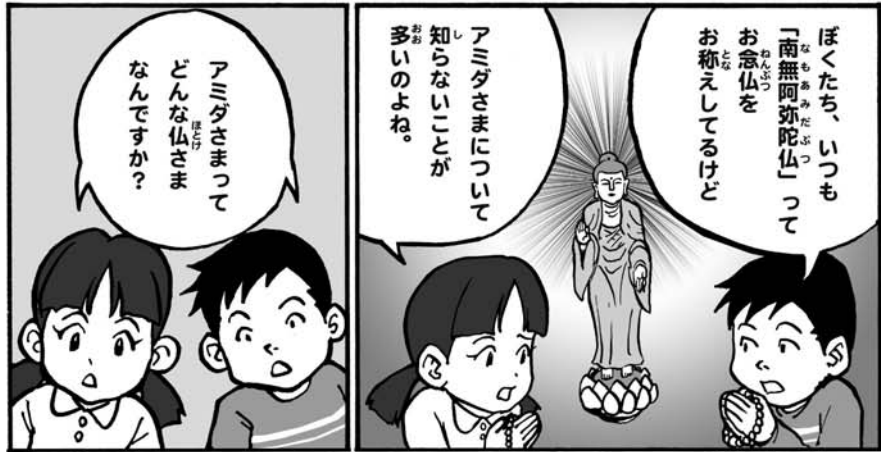


## もくじ

まんが ブッダのおしえ	3
48のメッセージ・おもちゃ箱	53
おにすけとしんらんさま	103
お家 <sup>うち</sup> の方 <sup>かた</sup> へ	127
四コマまんが あみださま	161
あとがき	175

※本書籍は、浄土真宗本願寺派の月刊紙『仏教子ども新聞』の700号〔平成21年4月発行〕から747号〔平成25年3月発行〕までを加筆訂正し収録したものです。なお、漢字・振り仮名の表記は、コーナーによって異なっている場合があります。



その1

アミダさまって どんな仏さま？

この漫画は、「さとるくん」、「みのりちゃん」が、  
 何気ない日常の出来事を通して、お釈迦さまから  
 「仏さまの教え」や「アミダさまのおことごとく」  
 を聞かせていただく物語です。



私たちは喜んだり、悲しんだり、  
つまづいたり、ころんだりしながら  
成長していきます。  
自分が困ったときに聞きたいことば、  
悩んでいる友だちに伝えたいことばが  
見つかるかもしれせん。  
クイズコーナー「おもちゃ箱」にも  
ぜひチャレンジしてみましよう。

メッセージ 1  
いい人があつまるとケンカする

ここでいう「いい人」とは、「私は間違っていない、私は正しい」と思っている人のことです。ケンカは、「私は正しい、悪いのはあなた」と思っている人同士がぶつかり合いです。

ある姉弟の話です。学校から帰ってきたタカコちゃんは、上着を脱いで、床に置いていました。

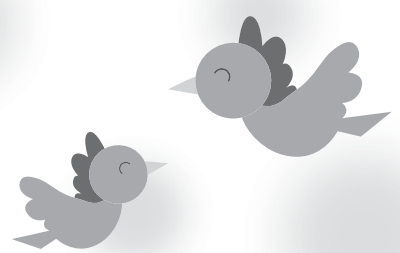
そこに弟のアツシくんが、走ってやってきました。すると、床に置いてあった上着で、すべって転んでしまいました。

それを見ていたタカコちゃんは、「あんたが、ちゃんと見てないから」と、アツシくんを責めました。アツシくんは、「おねえちゃんが、こんな所においでるからやる」と、お姉ちゃんを責めました。そして、とうとうケンカになりました。

二人とも、「悪いのは向こう、自分は正しい」と思っていたのですね。

私も、人を責めることがあります。きっと、どこかに「自分はいい人間だ」という思い上がりがあるのだと思います。おそろしいですね。

(きただいまぶとゆい)



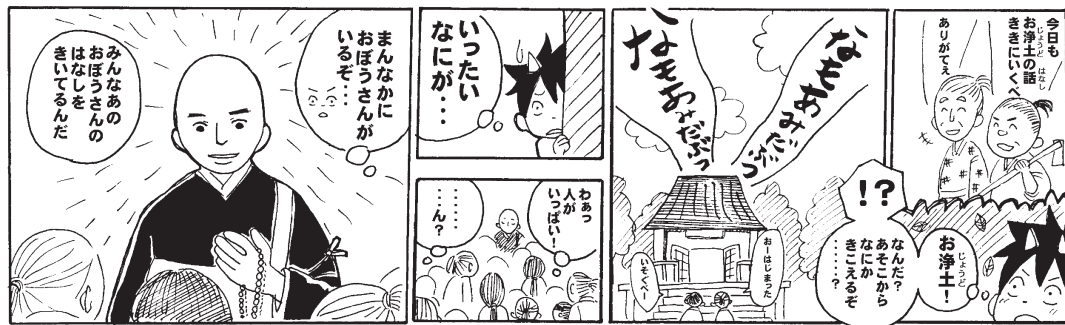
おもちゃ箱



もんだい 1

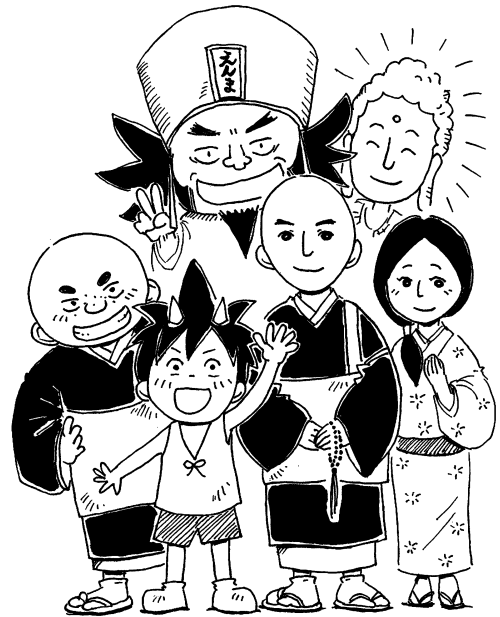
右のイラスト中から、「さくらのなびら」以外のイラストのマスをつぶすとあらわれるのは、どんな漢字かな？ しゅつだい・はやしでらけん

🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃
🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃
🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃
🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃
🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃
🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃
🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃
🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃	🍃



※しんらんさま (二一七三〜二二六三) 鎌倉時代のお坊さまで浄土真宗を開かれた人だよ

「最近地獄行きが減ってる。かわりに浄土行きがふえとるのお。ちょっと人間の世界へ行ってようすをみてまいれ」  
 えんま大王の命令で地獄から人間の世界にやってきた鬼の子おにすけ。  
 そこにはたくさんのお出遇いが待っています。  
 しんらんさまのおそばで  
 み教えをよろこぶ姿へと成長していく  
 おにすけの物語！



親子というのは、親だけでも  
子どもだけでも成立しません。  
親は子どもとの関わりのなかで  
大切なことに気づき、  
子どもはそんな親の姿を見て育ちます。  
ここでは、育児における悩みや  
よろこびを綴っています。  
親子の「今」と向き合う  
ヒントになればと思います。

#### ◆自分の力で生きていく

寄りかかるべき人ではなく、  
寄りかかることを不必要にさせるべき人、  
それが母であり、教育者である……

D. C. フィッシャー

公立の保育園を、民間委託で引き受けられた園長先生がおっしゃっていました。その公立保育園は、いままで保育士をたくさん配置し、なんでも事細かにやってあげる保育をされていたそうです。一歳児の食事の時間、誰一人として自分で食べようとはせず、ただ口をあけて待っているのだそうです。今まで保育士が全部口まで運んで食べさせていたそうです。時間はかからず散らからない方法ではあるのですが、子どもが自ら食べようとする意欲も、手を動かす能力も奪ってしまっていたのではないのでしょうか。

お母さんは「何でもお世話をする人、やってあげることが仕事」の様に考えがちですが、そればかりが先行すると、子どもが本来持っている力まで伸ばすことができなくなり



ます。もちろん、ただほったらかしにすればいいということではありません。

いつか子どもが、自分で考え、自分の人生を、他人に依存（寄りかかる）することなく、自分の力で生きていくために、今何をしなければいけないか、何をしたらいけないのかを、常に問い続けていくのが、母であり、教育者だと思います。

そのためには、まず子どもの発達の様子をしっかりと見守り、子どもの声に耳を傾けることが、大切ですね。

(たつお いちよう)

#### ◆四種の人間関係

ある老夫婦が、いざこざの絶えない若夫婦のもとに仲介に向かうことになりました。老夫婦は、道の途中で出会ったお釈迦さまに、どのように若夫婦を説得したらよいか、お説教を請います。お釈迦さまは、次のようにお話しになりました。

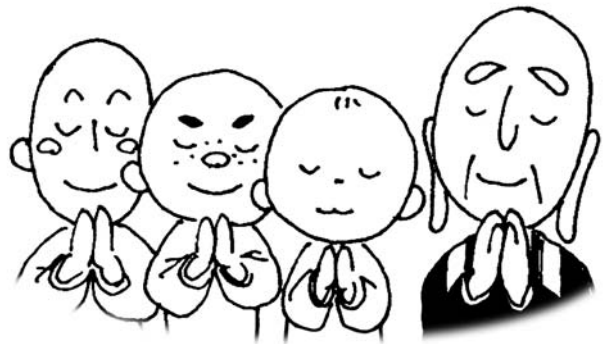
### お寺で勉強中の

「しんのぼう」「や」れんのぼう」「たちと  
みんなを見まもるご住職。」

あたたかみあふれる四コマ漫画です。

四コマの中には、浄土真宗において、  
とても大切なみ教えのお話が  
ぎゅっとなつまっています。

解説とあわせてお読みください。



### 「南無阿彌陀仏」

阿彌陀さまとは「かぎりない光と命の仏さま」です。その  
仏さまが「おまえを救うよ」と私を喚んでくださる声が私の  
□から出る「南無阿彌陀仏」です。私の□を借りて仏さまが  
「ここに仏がいるよ」と名のり出てくださるのです。

その仏さまの声を聞いて、私が「ありがとうございます」、  
仏さまにおまかせいたします」と称えるのもまた「南無阿彌  
陀仏」です。

かぎりない光と命の仏さまが「まかせよ、必ず救う、おま  
えの親がいるよ」と、いつも私のそばにいてくれるご住職  
とは、ありがたいことですね。

※現在、この漫画のようなお寺(子どもの僧侶がともに勉強して  
いるお寺)は浄土真宗にはありませんが、子どもの純粋な質  
問に僧侶が答えるという形でお話を進めていきます。少し前  
の時代を想像してください。